

2014. 3. 3 No.2109 No. 27  
 2014. 3.13 No.2110 No. 28 合併号



**三條南ロータリークラブ週報**  
**Sanjo Minami Rotary Club**



出席率 会員50名中35名  
 先々週の出席率 89.36%(2/17)



ロータリーを实践し  
 みんなの人生を

2013-2014 ロータリーのテーマ

**会長挨拶**

三條南ロータリークラブ会長

**草野恒輔**

こんにちは。

本日は、「ショートスピーチ」です。葦澤先輩、名古屋さん、よろしくお願ひいたします。私も「ショートスピーチ」にします。

**酒蔵の経営者**

共同通信が取材し、国内外の新聞に掲載されたのですが、地方紙の京都新聞に載った記事を紹介します。

従兄弟の中で一番仲の良かった長岡の酒類卸業「原商」の故原康彦さんの紹介で、長いお付き合いをさせて頂いている久須美酒造の久須美記徳(のりみち)さんの話です。

私と同年で66歳、23歳で結婚、6代目として酒造りを始めました。34歳で幻の米「亀の尾」を復活させました。弱い品種の為、姿を消していたのですが、農水省が保管していた種粃 1,500粒をもらい受け、大切に育て、「亀の尾」・「亀の翁」を造りました。このエピソードが漫画「夏子の酒」に描かれ、47歳の時にテレビドラマ化され、90年代地酒ブームを牽引しました。

しかし、彼は、ブームは4~5年で終わると冷静に判断していました。座右の銘である「誠実に勝る知恵はなし」に準じて浮ついた商売をすること無く、酒造りに没頭していました。

ところが、ブームが一段落した2004年7月13日に水害で蔵が崩壊、その年の10月23日の中越地震、更に2007年7月16日の中越沖地震と3度も天災に遭い、建物が崩壊しました。

誠実で頑張り屋の久須美さんだから、今も輝いて、生き残り、いい酒を造り続けていますが、普通、3回も建物が崩壊すれば、酒造りを諦めてしまいそうですが、今も頑張り、幻の酒である「亀の翁」、「清泉」、「亀の尾」、さらには「7代目」と造り現在に至ります。

**四つのテスト**

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 ロンD. バートン [アメリカ]  
 第2560地区ガバナー 山崎 堅 輔 [中 条]  
 第4分区AG 鈴木 守 男 [三條東]  
 会 長 草野 恒 輔  
 幹 事 平 松 修 之  
 S A A 齋 藤 嘉 一

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10  
**三條信用金庫 本店内**  
 TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095  
 E-mail info@sanjo-minami.jp  
 URL http://www.sanjo-minami.jp

海外では日本食ブームのおかげで消費量が少し上がっているようですが、国内では日本酒の消費量は年々落ちていくとのことです。

「これで生きる久須美さん」が多く出てくればと思いますが、こんな凄い人はそういません。いい人と友達になりました。

2句! 何でかな 妻という字を 毒と書く  
捨ててみろ あの世に行ったら 化けてやる

## 幹事報告

松崎孝史 副幹事

### 佐々木ガバナーエレクト事務所より「2014～15年度地区研修・協議会」開催のご案内

日時 2014年4月12日(土) 9:30～17:30  
会場 小千谷市総合体育館 他  
出席義務者 地区役員 会長、幹事  
クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、青少年交換、米山記念奨学、ロータリー財団 各委員長  
新会員

# ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 3月 3日 18,000円  
今年度累計 599,661円～

草野君 インフルエンザは、まだまだ勢いがあります。

暖かくなってきましたが、ご注意ください。

荻澤君 ミニ卓話です。当クラブの約40年間で楽しかったこと等々話させていただきます。私と同じく多くの思い出があろうかと思えます。よろしく。荒澤さん、新任 保護司ご苦労様です。

佐藤(秀)君、西巻君、野崎君、船久保君

荻澤さん、名古屋さん、本日のショートスピーチご苦労様です。楽しみにしています。

鈴木(武)君 水戸の偕楽園の梅は総じて2分咲き位かな？

野中君 今週は寒の戻りです。健康に注意しましょう。

大溪君、滝口君、田代君、田中君  
銅冶君、野水君、丸山君、渡邊(光)君

BOXに協力いたします。

坂井君 ショートスピーチの荻澤さん、名古屋さん、楽しみにしております。今日は久しぶりのニコニコBOX担当でした。ご協力有難うございました。

## Short Speech

名古屋 豊 会員



ショートスピーチの機会をいただき有難うございました。

「三条市3月定例会」が本日より開会され、平成26年度予算案など26件の議案が上程されました。

限られた時間ですので予算案のポイントを配布させていただき、その一部についてご紹介、ご説明いたします。

「子育て環境の充実」の中『さんじょう一番星育成』について  
これは、学力、スポーツ、文化・芸術の分野で高い資質と意欲を兼ね備えた子供たちが将来“一番星”として輝けるよう、その能力をさらに高めるための取り組みです。

- 学力面では小学5年生から中学2年生までの希望者を募り、外部機関の協力も得ながら質の高い学習機会を提供し、難関大学に将来合格できるだけの力を身につけられる環境を整える。
- スポーツの分野では、トップアスリートとなり得る実力をもつ子供たちに対し、大会や練習にかかる費用を補助して負担の軽減を図る。

・文化、芸術の分野では、専門家による音楽や美術の指導を受ける機会を設けるほか、芸術系大学への入学を志し、さらに高度な指導を希望する子供たちに対し、費用補助をするというものです。問題点もたくさんあるかと思われませんが、「選ばれて次代まで住み継がれるまち」の実現に向けた取り組みへの提案の一つです。



## ■ 荏澤 喜一郎 会員



私のロータリー歴と楽しかった海外研修旅行についてお話したいと思います。三条南ロータリークラブへの入会は、クラブ創立7年目の1974（S49）年7月1日、第7代 佐藤譲会長と相田明雄幹事でした。入会をお誘いいただいたのは、石川吉松さんと馬場茂夫さん、同期入会は3名で、白倉修三さんと鈴木武さんです。入会時には、先輩メンバーが43名おられました。現在はチャーターメンバーの馬場信彦さん、1972年1月入会の西巻克郎さん、1972年7月入会の渡邊久晃さんのお三人です。

入会のお誘いをいただいた時、「クラブ例会出席と他クラブへのメイクアップを含めて60%以上の出席が必要で、それだけはお願ひしたい」とのお話でした。その当時は、東京、横浜方面に1週間間隔で半月程の出張をしておりましたので、計算をして欠席40%を保ちました。その後11月18日、馬場金太郎ガバナーの公式訪問の折にメンバー一人一人にいろいろなお話や注意があり、私は出席率に触れられ、「60%か。若いからまあ良いだろう」と言われました。しかし、クラブ全体の出席率は年間90%以上、これは大変だ、メンバーの方々に迷惑をおかけしてしまった、『60%以上の出席を・・・』とは入会させるための言葉だったのだと思いました。それから今日まで39年数ヶ月連続100%です。

1979～80年度 牛久保海平ガバナー（伊勢崎RC）、馬場茂夫第12代会長時に幹事を、1997～98年度 久保田昭治ガバナー（伊勢崎RC）、坪井正康第30代会長時に2回目の幹事を務めました。坪井会長年度は会員数80名、年間出席率93.68%。会員諸氏のご協力をいただき、節目の30周年記念事業等、無事開催することができました。

1999～2000年度 高木貞一郎ガバナー（館林RC）時に佐藤嘉男さんに幹事をお願いし、会員数74名、出席率94.4%で、第32代会長を無事務めさせていただきました。感謝、感謝です。

- 私の国際大会への参加は、
- ① 1977～78年度 東京大会 RI会長は、バミューダのW. ジャック テービス氏
  - ② 1996～97年度 イギリス・グラスゴー大会 RI会長は、アルゼンチンのルイス ビセンテ ジアイ氏
  - ③ 2004～05年度 大阪大会 RI会長は、ナイジェリアのジョナサンB. マジリアベ氏 の3回です。

当クラブの自慢の一つである海外研修旅行についてご紹介します。(敬称を略させていただきます)

|   |                 |   |
|---|-----------------|---|
| ① | 1976年 1/10~15   | インドネシア・バリ島旅行  |
| ② | 1978年 1/14~17   | 台湾旅行  |
| ③ | 1985年 5/2~6     | シンガポール旅行・・・12名参加<br>会長：武藤昭三(17代) 国際奉仕委員長：坪井正康             |
| ④ | 1987年 5/        | 台湾の旅・・・20名参加<br>会長：田中孝幸(19代) 国際奉仕委員長：目黒義雄                 |
| ⑤ | 1988年 5/3~6     | 香港・マカオの旅・・・16名参加<br>会長：馬場信彦(20代) 国際奉仕委員長：清水鉄男             |
| ⑥ | 1989年 5/3~7     | タイ バンコク・チェンマイの旅・・・24名参加                                   |
| ⑦ | 1989年 5/20~23   | ソウル国際大会参加旅行・・・12名参加<br>会長：西巻克郎(21代) 国際奉仕委員長：葦澤喜一郎         |
| ⑧ | 1990年 1/16~21   | オーストラリアの旅・・・30名参加<br>会長：野島廣一郎(22代) 国際奉仕委員長：佐藤 譲           |
| ⑨ | 1992年 5/1~9     | 魅惑のスペインと南ヨーロッパの旅・・・21名参加<br>会長：田中久作(24代) 国際奉仕委員長：鈴木 武     |
| ⑩ | 1994年 4/29~5/5  | アメリカ西海岸の旅・・・24名参加<br>会長：鈴木幸一(26代) 国際奉仕委員長：安達 裕            |
| ⑪ | 1996年 4/27~5/5  | オリエント急行によるヨーロッパの旅・・・35名参加<br>会長：丸田肇一(28代) 国際奉仕委員長：佐藤栄祐    |
| ⑫ | 1997年 6/14~6/20 | スコットランド・グラスゴー国際大会参加旅行・・・6名参加<br>会長：鈴木 武(29代) 国際奉仕委員長：橋本和雄 |
| ⑬ | 1998年 4/28~5/5  | 大自然ニュージーランドの旅・・・9名参加<br>会長：坪井正康(30代) 国際奉仕委員長：田中康雄         |
| ⑭ | 1999年 5/1~4     | ベトナム・ホーチミンの旅・・・16名参加<br>会長：橋本和雄(31代) 国際奉仕委員長：坂井範夫         |
| ⑮ | 2000年 4/29~5/3  | シルクロード 敦煌・西安の旅・・・15名参加<br>会長：葦澤喜一郎(32代) 国際奉仕委員長：長谷川晴生     |
| ⑯ | 2001年 4/28~5/4  | カナディアンロッキーとアメリカ西海岸の旅<br>会長：安達 裕(33代) 国際奉仕委員長：西野治報         |
| ⑰ | 2006年 4/27~5/2  | リゾートアイランド ハワイの旅・・・14名参加<br>会長：佐藤栄祐(38代) 国際奉仕委員長：安達 裕      |
| ⑱ | 2007年 5/3~6     | 台湾の旅・・・23名参加<br>会長：馬場一敏(39代) 国際奉仕委員長：鈴木 武                 |
| ⑲ | 2008年 5/3~5     | 韓国の旅・・・14名参加<br>会長：坂本洋司(40代) 国際奉仕委員長：草野恒輔                 |
| ⑳ | 2009年 6/17~24   | バーミンガム国際大会参加旅行・・・11名参加<br>ガバナー：馬場信彦 オンツアーミンガム：西巻克郎        |
| ㉑ | 2010年 5/3~7     | バンコク国際大会参加旅行・・・10名参加<br>会長：鈴木囀彦(44代) 国際奉仕委員長：鈴木 武         |

※参加人数は当クラブメンバー+ご家族 (他クラブから参加いただいた旅行もあります)

私の初めての海外旅行は、仕事関係で東京の間屋さん主催の親睦旅行、1970(S45)年香港・マカオ台湾の旅でした。

そして、クラブの海外研修旅行には、③のシンガポール旅行が最初の参加でした。続いて⑥のバンコク・チェンマイの旅は、私が国際奉仕委員長を務め計画したものでした。その後⑨に参加、マドリード～ローマ～ナポリ～ボンペイ～ベネチア～パリを周りました。⑩では、ロサンゼルス～サンフランシスコ～ラスベガス～グランドキャニオンを満喫し、⑪は、『暦祝い旅行』と銘打って同年4組の夫婦で参加しました。⑫では、国際大会参加後、エジンバラ～ゴルフ発祥のセントアンドリュース、そしてロンドンと“イギリスの休日”を楽しみました。⑬ニュージーランドでは季節は秋。クライストチャーチ～マウントクック～ウィーンズタウン～オークランド、マウントクックのタスマン氷河遊覧飛行での壮大な景色は忘れられません。

⑮は、私が会長の時に長谷川晴生国際奉仕委員長計画のもと実施された旅行でした。砂漠の中に復元した「敦煌城」、中国三大石窟の一つ「莫高窟」の壁画は圧巻そのもの、そして、秦の始皇帝の最大の遺産「兵馬俑坑」を目の目の当たりにし、その表情や顔、形が一体ずつ違う兵の勇姿に感動も一入でした。

⑰の旅では、飛行機の席がとれず2班に分かれて台湾高尾空港へ。開通後2ヶ月足らずの台湾高速鉄道(新幹線)にも乗車、乗り心地は思った以上に静かで揺れも少なく快適でした。

8回、海外研修旅行に参加させていただき、その一つ一つの旅に様々な思い出があります。メンバーと親睦を深め、かけがえない体験を積むことができました。貴重な私のロータリーの歴史です。

# 市内4RC合同例会



出席率 会員50名中19名

先々週の出席率 87.50%(2/24)

ゲスト NPO法人 ジャパン・ハンディキャップゴルフ協会理事  
公益社団法人 日本プロゴルファー協会ティーチングプロ

小山田 雅人様

## 先々週のメイクアップ

- 3/5 クラブ運営会議へ  
佐々木常行君 松崎孝史君 馬場真樹君 永桶俊一君 田代徳太郎君
- 3/6 燕RCへ  
船久保孝志君 長谷美津明君 平松修之君 加藤峰孝君 木村 譲君  
西巻克郎君 吉沢栄一君
- 3/8 ローターアクト地区大会へ 野中 悟君
- 3/11 三条北RCへ  
長谷美津明君 星野健司君 西潟精一君 鈴木 武君 田代徳太郎君  
渡辺俊明君 吉井正孝君
- 3/12 三条RCへ  
長谷美津明君 石山荘一君 熊倉高志君 西潟精一君 野島廣一郎君  
田中悌司君 田代徳太郎君

## 会長挨拶

### 小出和子 三条東ロータリークラブ会長



皆さん、こんにちは。

本日は、市内4ロータリークラブ合同例会にご出席くださりましてありがとうございます。

今年度は、東ロータリークラブが担当ということで、いろいろ検討させていただきましたが、会員の多くの方がゴルフに興味をお持ちかと思いき、プロゴルファーをお呼びし、講演をしていただくことにしました。

講師については、後ほどご紹介いたしますが、障害や病気を乗り越えて、努力されてプロの資格を取得してきた人のお話ですので、これからの私たちの生き方や商売繁盛に繋がるヒントをいただけるのではないかと考えております。また、講演の中で、ゴルフのスコアをアップさせるテクニックなどもお聞かせいただけるということですので、楽しみにしております。

小山田様よろしくお願いいたします。

また、昨年9月に実施いたしました第4分区のIMの際には、中條パストガバナーはじめ、各クラブの方々よりご協力をいただき、無事終了させることができました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

2年後には、10周年も控えておりますので、今後ともご指導下さいますよう、よろしくお願いいたします。

## 講師紹介

大方 一 三条東ロータリークラブ幹事

小山田雅人（こやまだ まさと）様 栃木県生まれです。

講師は、2歳の時に、実家が営む精肉店の機械に巻き込まれ、右手首より先を失う、大怪我に遭いました。しかし、幼い頃より、少年は、スポーツが好きで、『野球、サッカー、陸上』と、何にでも挑戦。中学校では、野球部のピッチャーとして、県大会準優勝。

そして、中学3年生の頃、初めてゴルフと出会い、社会人になってからは、特に力を入れ、一般アマチュア選手権大会に参戦。

2009年には、栃木県アマチュア選手権2位。2011年栃木県、県知事杯4位。日本障害者ゴルフ大会では、常に優勝。そして日本代表として、世界大会に何度も出場し、優勝。数々の素晴らしい、好成績を残されております。

そして、日本プロゴルフ協会、ティーチングプロ、合格！ 一般の方でも出来ないくらい、これは素晴らしいことだと思います。今日では、ティーチングプロとしても、大活躍しております。

本日は、キャッチボールをしたり・・・、実践を交えながらの講演とお聞きしております。

1時間の限られたお時間でございますが、どうぞ、楽しんでいただければと思います。

# 「障害や病気を乗り越えて」 ～人との関わりの中で～

NPO 法人 ジャパン・ハンディキャップゴルフ協会理事  
公益社団法人 日本プロゴルファー協会ティーチングプロ

小山田 雅人 様



皆さん、こんにちは。富士産業所属・プロゴルファーの小山田といいます。よろしくお願いします。

今、プロゴルファーと言いましたが、正式なプロと登録されたのは今年の1月1日からです。

では、その前までは何をしていたかという、公務員として栃木県庁で25年間働いていました。その25年間務めた栃木県庁を退職し、障害者でもプロゴルファーになれることを証明しよう、現在所属している富士産業にバックアップをしていただき、プロテストに挑戦し合格することが出来、正式にプロゴルファーとなることが出来ました。

今のテストになってから初めての肢体不自由者のプロゴルファーとなりました。目指したことが一つ実現しました。

今後の目標は、今年9月に初めて障害者ゴルフ世界大会が日本で行われます。この大会で優勝し、障害者ゴルフで世界一になりたいと思いますし、パラリンピックでも正式競技になるかもしれないゴルフ部門での金メダルを目指しています。

「障害や病気を乗り越えて ～人との関わりの中で～」とありますが、私が、2歳の時に障害を負い、23歳の時に一つ目の病気が発症し、38歳の時に二つ目の病気が発見され、そして、46歳の時に三つ目の病気が発症し、現在に至っています。

それでは、これから私が、障害や病気にあってから現在まで、「どのように生きてきたのか」また、乗り越えるためには「何が必要だったのか」、「どんな人達と関わってきたのか」、ということをお話していきたいと思っております。

まず、右手を失ったことですが、2歳の時に実家が営業している精肉業の（というより、肉屋と呼んだ方が分かりやすいと思いますが）肉を切る機械に、間違っって右手を入れてしまい、手首から先を失うという事故に遭いました。（余談ですが事故後、事故にあった機械は交換しましたがこれも・・・）

2歳という年齢でしたから、実際に物心ついた時には、生まれた時から“右手が無い”という感覚でした。ですから、両親には、右手を失った原因について、大きくなるまで聞いたこともありませんでしたし、両親を責めたりしたこともありませんでした。

では、“何故”右手を失ったことを知ったか、という、小学校の時から“テレビや新聞”の取材を受けるようになり、その取材が原因で、右手を失ったことを知ることが出来ました。

私の取材、という訳ですから、自分は勿論のことでしたが、両親も取材を受けました。その取材の中で、右手を失った原因について、話していたことを、取材の場ではなく、後で、テレビの放映を見て知っていったという感じでした。

そのテレビの中で両親は、自分の子どもに障害を負わせてしまったことをとても後悔している、ということを知りました。特に母親は、普通では2歳の子供が乗ることが出来ない場所に肉を切る機械が置いてありましたが、仕事が忙しかったため、機械の前に私を置いてしまい、右手を失ったのは、自分の責任だ、と話していて、とても悲しく思いました。

ですから、そんなに後悔している両親を、これ以上追いつめたくないですし、後悔していることを全く態度に出さないで、右手の無い私を、普通の子と同じように育ててくれた両親を、「今と変えたくなく」という心境から、両親には、この右手のことを何も聞かないようにしようと心に決めました。

今、小学校の時から、テレビや新聞の取材、と言いましたが、それは、何が原因で取材を受けるようになったかと言うと・・・、手の無い私が、野球を始めたからなのです。

小学校3年生から野球をやるようになりました。いろいろなスポーツと出会ってきましたが、野球との出会いが、私を大きく変えたと思います。

小学校3年生から、父親と家でキャッチボールを始めました。キャッチボールを始めた時、勿論、私は、右手が無い訳ですから、左手でグローブを使い、ボールを捕って、ボールを捕ったグローブを地面に置いて、ボールを拾い投げ返す。そんなキャッチボールを父親と始めました。

始めた頃は、そんなキャッチボールで良かったのですが、だんだん慣れてくると、ボールを捕るたびに、いちいちグローブを地面に置くのが嫌になってきました。「どうにかして、グローブからボールを早く取る方法はないか」と考えるようになりました。

『考える』ということは、本来、父親とキャッチボールをしている訳ですから、父親に相談して、いろいろなことを一緒に考えながら、より良い方法を探していくものだと思いますし、父親からすれば、私から相談されたことに対して、私の教育も兼ねて、私を指導していくものだと思います。

それに、当時、私の父親は、栃木県那須町の野球指導、という肩書きまで持っていた人なのです。ですから、私からすれば、私の相談を受けるまでもなく、野球の指導をしてくれるもの、とっていました。

(余談ですが、私の父親はプロ野球のスカウトからプロに誘われたこともある程の野球の名手でした。)

ですが、私の父親は、毎日のようにキャッチボールはしてくれるのに、一切の指導はしてくれませんでした。「どうして教えてくれないのだろう」、子どもですから悩みました。いろいろ悩んだあげく、子どもながらにこんな答えを考え出しました。

「父親は、野球の指導員として障害のない人(いわゆる健常者)には、良い指導が出来るが、私のように、右手が無い人と野球をすることがなかったため、父親が教えるより、自分自身で考えることが、一番の効率の良さ、と考えて、私に何かを考えさせようと、毎日、キャッチボールをしてくれているんだ」と思いました。

そう考えてからというもの、父親とキャッチボールを始める前まで、家の近くの壁に向かって、一人でボールをぶつけて、跳ね返ってきたボールを捕ってから投げる練習をするようになりました。いかに、早く捕って、いかに、早く投げられるかという練習を毎日行いました。



北 RC 野球部メンバーとキャッチボールを.....

キャッチボールが出来るようになったので、小学校4年生の時に、野球部に入部しました。野球部に入部すると、小学校では4番バッターで、那須郡大会に優勝し、中学校では、ピッチャーとして栃木県大会を準優勝しました。こういう実績を聞くと、野球を始めた時から上手かったように聞こえますが、小学校の野球部入部当時から上手だった訳ではないのです。むしろ、右手がない補欠選手として、野球部に在籍していました。実際に、小学校時代は、野球部の選手としても扱ってもらえず、玉拾いばかりさせられていました。

そんな時なのです。今まで何も言わず黙っていた父親が、今度は指導者として、私を指導し始めたのです。先ほどまでは、障害者に指導するケースがない、と言いましたが、それは、キャッチボールだけであって、“走ったり、守ったり、打ったり”することは、私の場合は普通の人と同じだと、言うのです。

人と同じ条件で補欠なのだから、人より練習しなさい、と言われました。それからというもの、毎晩のように、練習とは名ばかりの、特訓の毎日でした。

ここに居る皆さんは、テレビのアニメで見たことがないかもしれませんが、昔、「巨人の星」という野球アニメが放送されていました。父親は、そのアニメに登場する主人公の父親である“星一徹”さながらの特訓を、私にやらせました。今は、もうやってはいけなくなりましたが、“うさぎとび”や“腕立て伏せ”“腹筋”“新聞紙を丸めて家の中でのトスバッティング” そんな特訓を、毎晩やりました。

それと、今、“腕立て伏せ”と言いましたが、そんな効果というか違いが、右手と左手に現われています。これだけ左腕を鍛えたために、左腕だけで腕立て伏せが出来るようになっていきます。

それに、野球をするために左腕だけを鍛えたのではなく、ピッチャーであったためにたくさんの走り込みをしました。勿論、学校での練習時間だけでなく、家に戻ってからも一人で走っていました。

そのことがあったために、普通の人と同じか、もしくはそれ以上にゴルフクラブが振れるようになりました。

スポーツで野球を選択したお陰で、右手がなくても、それに代わる体の部分を応用する方法と応用するために今ある部分を強化することを学びました。

それと、今、義手を外して、普通に右腕を見せていますが、実は、今まで家族以外の前では、絶対 義手を外しませんでしたし、右腕も見せませんでした。なぜ、外さなかったか、というと.....、

私が、小さい頃に、義手を付けていない私を見た人達が、同情するような目で、私を見ていたからなのです。

今では、意識しなくなりましたが、義手を付けて活躍している内は、あまり相手も意識しませんでした。右腕を見せた瞬間から、相手の意識が、それまでと変わるからでした。

私のことを、障害者と意識してはいないのですが、義手を外した瞬間、右腕を見せた瞬間から、健常者と障害者、

という変な図式が現われてしまいました。それを避けるために、義手を外すのをやめていたのです。

その義手を外すきっかけを作ってくれたのが、ゴルフとの出会いなのです。

ゴルフを本格的に始めるようになったのは、高校卒業と同時でした。ゴルフを始めた頃は、一人で練習場に行き、かなりのボールを打ちましたが、なかなか、思い通りのボールを打つことが出来ませんでした。今のスイングになるまで、相当な時間がかかりましたし、時には、朝 10 時から夜 10 時まで練習場で練習している、なんてこともありました。先ほどから、練習や特訓の話をしてはいますが、私は、特訓が“大好き”なんです。

それと、これはあるプロゴルファーとの会話でのことなのですが、プロゴルファーが私のスイングを見て自分の体にあった理想的なスイングだと言ってきました。基本を知っているながら、自分の体にあった動きに修正しているため、今の飛距離とスコアがあるんだと言ってもらえました。

この会話は、かなりの自信につながりましたし、人のスイングや動作を気にせず、自分で思い描いたことを、貫き通している結果だと思っています。

そもそも、ゴルフというスポーツは、個人スポーツです。それに、戦う相手は、基本的には人間ではなく、コース（自然）なのです。同じ場所に障害者がいても、気にする人はいないのです。

ただ、障害者がゴルフをする、ということは、健常者に比べて条件が厳しくなります。ルールについても厳しくて、義手についても条件があります。動く義手やクラブに固定する義手を付けてはいけない、ということなのです。アメリカで行われていた障害者ゴルフ大会に、日本代表として 4 年出場し、手の障害部門を連続で優勝しましたが、私以外の手に障害をもっている方たちは、動く義手や固定する義手を開発して、いろいろな義手を付けて参加していました。ですが、ほかの選手達が付けている義手を付けてしまうと、通常の大会というか、健常者の大会に出ることが出来ないのです。

私の場合は、義手が動くことも出来ないし、固定することも出来ない、ということで、通常の大会の参加を認められました。そんな私を、ゴルフの仲間の人達は、障害者とはまったく見てはいません。

というのも、普通なら、健常者が障害者の助けとなって、いろいろな物事を処理していくものだと思いますが、ことゴルフに関しては、立場が逆転しています。

現在は、いろいろな方の、ゴルフ指導にもあたっています。その指導をしている、ほとんどの人が、健常者『普通の人』です。

ゴルフを教えている時に、私は、右手が無いにも関わらず、相手の右手の動きを、「こうしなさい」とか、「こう動かしなさい」と、左手で教えています。相手にしてみれば、右手が無い人が、「右手の動きまで分かるのかなー」って思っている、実際に、私の教え通りにボールを打ってみて、きちんとボールが打てるようになれば、「この人は、手が有るとか、無いとかは関係ないし、障害なんて感じられない」って言ってくれるようになります。この瞬間が、自分にとっては、とても嬉しいし、「ゴルフって居心地がいい場所だなー」って思えるようになります。

そんなことが、繰り返されるうちに、人前で右腕を見せても大丈夫と思うようになり、義手を外し始めたのです。



ゴルフスイングと  
テクニックを・・・

ですが、そんな大切なゴルフとの出会いの中で、3つの病気が発見されました。今でも、その3つの病気は治っていないため、治療を続けています。

23歳の時の病気は、『脊椎分離症』という病気です。あまり聞いたことがないと思いますが、ヘルニアと同じように、腰に痛みが出る症状を引き起こします。私の場合は、症状がひどくて、一人で立ち上がることも出来なくなりました。人に助けをもらって、やっと立ち上がったとしても、普通に歩くことも出来ない、何かに掴まらないと歩けない、という状態でした。

病院も幾つも探して、やっと、今、通っている病院を探しあてました。何度か治療し、一人で普通の生活が出来るようになるまで回復した時に、先生からこんなことを言われたのです、「また同じ症状になるから、ゴルフは諦めなさい」と。

その時はショックでした。しかし、私の良いところなのでしょうか？ 先生の言うことを素直に聞かないんです。先生に言われたからといって、素直には“あきらめない”のです。

いろいろなゴルフ雑誌を読みあさり、「腰に負担の掛からない、ゴルフのやり方はないのか」と、一生懸命調べました。調べた結果、何とか、腰の負担を減らすやり方を見つけ、先生に相談し、ゴルフを続けることの理解を得ることが出来ました。勿論、痛くなったらすぐに病院に来なさい、ということなのですが・・・。それから先生は、「やめなさい、諦めなさい」とは言わなくなりました。

それから、もう一つの病気なのですが、今から8年前に病気を発見されました。その病気の名は、『脳腫瘍』です。それも悪性のガン『グリオーマ』でした。

発見後すぐに、手術を受けました。頭を開いて、“脳”そのものを取り除くという手術です。私の場合は、脳の中にできる腫瘍でしたので、腫瘍だけを取り除くことが出来ないため、正常な部分も含めて脳を取りました。

勿論、手術は成功したのですが、ただ、“ガン”がある場所が場所だったため、これ以上は取ることは出来ない、と言われ、ガンを一部脳に残したまま手術は終了しました。

腫瘍のある場所は、左脳と呼ばれる場所で、働きとしては、考えたり、言葉を話すために使う場所です。ですから、除去しすぎると思考能力が無くなり、今、こうして話をしていることも出来なくなってしまうのです。そのため、私の頭の中には、今もガンが残っている状態です。勿論、ガンが残ったままですから、定期的に病院に通って進行状況をチェックしてもらっています。

それに、いかに、悪性のガンとはいえ、担当の先生の出来る限りの力で、ガンを取り除いてもらいましたし、それに、私の、ガンに効く抗がん剤もあります。「ある」と言っても・・・、ここからが、ほかの人と違うところだと、思うのですが、勿論、担当の先生と何度も話し合っていて決めていることですが、抗がん剤を、まだ服用したり、投与したりしていない、ということなんです。

ガンを持っている人間が、なぜクスリを服用しないのか。皆さん、疑問に思うでしょう？それは、クスリの副作用が、大変強いからです。副作用によってゴルフが出来なくなる、ということでした。先生も私も悩みました、ゴルフによって、いろいろな苦難や挫折を克服し、乗り越えてきたのに、世界と戦うためには、今のゴルフが重要なのに・・・。そんな大切なゴルフを、私から無くしてしまっても大丈夫なのか？出した答えが、こうでした。

「ガンの進行状況を常にチェックして、クスリを服用しなければいけない時期まで、服用はやめよう、ということでした。出来る限り、今の状態でゴルフを続けよう、今の状態で世界を相手に戦えるだけ戦おう」ということでした。

そんな状態が8年を過ぎて、現在でも、クスリの服用もしていないのに、手術後の状態が一切変わっていません。悪性の腫瘍が頭の中に残されているのに全く変化しないのです。このことは、担当の先生も首をかしげています。というのも、私のガンの術後10年の生存率は46%だからです。

3月7日に検査した時も、先生から「小山田さんの体の中には抗体があるのかな？」と言われましたが、私は人間の中には、クスリに頼らなくても、ガンに対抗する何かがあるのだらうと思っています。

ただ、そうは思っても生存率のデーターは気になります。それに、ガンと宣告されてから結婚し、娘も授かりました。もし、データーどおりになったとしても、娘の記憶に強く残したいという思いで、片手のプロゴルファーを目指すことに決めました。

それともう一つの病気です。

最初に1月1日からプロゴルファーになったと言いましたが、プロゴルファーとして初めてゴルフをした1月3日の夕方にその病気が発症しました。その病名は「急性心筋梗塞」です。

毎年正月3日に行われている友人たちとの新年ゴルフコンペの日でした。友人たちは私がプロゴルファーになったことを分かっていますので、みんなから「おめでとう」と声をかけられ、楽しく有意義なゴルフでした。

そのゴルフの懇親会の席でのことです。みんなと楽しく会話している時に急激に胸が痛くなり、吐き気と冷や汗が止まらなくなりました。友人の中には医者もいましたので救急車を呼び病院に緊急搬送されました。

病院に着くと、緊急手術となり、一命を取り留めましたが、翌日、妻から1時間病院に来るのが遅かったら命がなかったと先生から言われたと聞いて本当にビックリしました。

勿論、命は助かり良かったと思っていますが、通常の急性心筋梗塞患者より重症ということで、ゴルフに復帰出来るのは6ヶ月後と言われ、プロとなったのにゴルフが出来ないことにショックを受けました。しかし、ショックを受けたのは最初だけで、寝たきりの生活が一週間で終わり、リハビリを開始してからは、ゴルフが出来ないのであれば、リハビリ内容を徐々に強化して体カトレーニングをしようと考えました。

プロにはなりませんが、自分のゴルフに足りないものも分かっています。今回の病気は、そういった部分の強化を初心に戻って“もう一度鍛えなさい”というメッセージだったのだらうと今は考えています。

それに、緊急搬送された病院は関係機関に室内トレーニングセンターがあります。退院と同時にその室内トレーニングセンターでトレーナーに自分が鍛えたい筋肉の説明をして、トレーニングメニューを作ってもらい、リハビリという名のトレーニングをしています。

その成果なのか、病院での検査の結果、ゴルフの許可がおりました。早速、3月10日にゴルフをしてきましたが、入院前よりボールが飛びようになり、嬉しいゴルフとなりました。

ここまで話した、障害や病気に関することや思い出に残ること、その話の全てのことにに関して、統一したことがあります。それは、全てのことについて、誰かが、私に、関わっている、ということです。富士産業の社長・両親・学校の先生・病院の医師・友人や仲間・そして私の「妻」です。

私が、誰かと関わることによって、自分一人では、～ 乗り越えられない ～ ことでも、誰かに相談することによって、自分が越えられない壁を、越えるための工夫や、越えるために必要な新しい考えを、思い描ける、ということなんです。

自分一人では、“あきらめなきゃいけないこと”は沢山あります。でも、自分が何かにぶつかっても、誰かと、関わることによって、解決方法が必ず見つけ出せるはずなんです。

時には、相手にその意志がなくても、相手の言葉や行動によっては、自分に新しい道が開ける場合もあります。私の場合は、腰を痛めたときに、病院の先生が私の体を気遣って「ゴルフをあきらめなさい」と言いましたが、“あきらめたくない”という一心から、自分なりのゴルフのやり方を見つけました。そのため、今のゴルフが出来上がり、世界を目指して戦えるようになったんだ、と思っています。

“あきらめない”という気持ちを“決して忘れず”、そして、決して自分一人で、何とかしようとは思わないことです。心配なことや不安なことがあったら、誰にでも、相談や自分で考えていることを話してみることです。そういう気持ちを常に、“忘れないで欲しい”と思います。

それから、皆さんに、これも分かっていたいただきたいと思います。障害者や病気の人に対して、普通なら、助けが必要ですが、でも、どんな時でも、声を掛ければいい という訳ではないのです。

障害や病気を考え、相手のことを理解して、温かい目で見守っていて、障害や病気を持っている人が、“本当に困っている時”にだけ助けてあげよう、という気持ちでいて欲しいのです。どんな時でも助けていたら、その人は、戦うことや努力することを忘れてしまいます。人に頼りっきりの人生になってしまいます。

全ての障害や病気を理解することは、とても難しいと思いますが、ぜひ、忘れないで、障害者や病気を持った方と向かい合っていたいただきたいと思います。

それから、知り合いから言われたことで、私の心に強く残る言葉があります。

「ないものを嘆くより、あるものに感謝したい」という言葉です。

私は手首より先を失いましたが、手首から肘までの腕の部分は残りました。その残された腕を工夫して使うことによって、いろいろな事を克服出来たと思っていますし、脳についても同じです。脳腫瘍によって左脳の大部分は無くなってしまいましたが、少しの左脳と右脳が残されています。残された、左脳と右脳を使い、手術前に近づこうと思っています。

それと、これは余談なのですが、先ほど関わっている人達の中で“妻”と言いましたが、私は、妻に陰から支えられています。ガンを宣告されるちょっと前に、私が事務職員として赴任していた那須特別支援学校で知り合ったのですが、結婚前だったこともあり、実家に帰るよう妻に話しました。その話を聞いて妻は、私を叱りました。「私があなただを支えるから、出来る限りのことをやりなさい」と言われました。今では、妻は、私よりも“脳腫瘍”に詳しくなっています。今は、私のために、いろいろな努力をしてくれています。

最後になりますが、

皆さんも、“病気やケガ”または、“精神的な、心のストレス”で、「私ばかり」とか、「何で私が」、なんて深く悩まないで下さい。

自分以外にも、特に、私のように、障害や病気に遭いながらも、それと戦いながら、人生を楽しく、目標に向けて生きている人間がいるんだ ということを忘れないでいただきたいと思います。

これで私の講演を終わりにしたいと思います。聞いていただいて、ありがとうございました。

次週例会 3月24日 卓話 永桶俊一会員

次々週例会 3月31日 クラブ休会



ときを超えて  
あの日の一枚・

渡邊 久晃 会員

若き青年医師

…26、27歳頃だったかな？



三條南ロータリークラブ週報

2014. 3. 3

No.2109 No.27

2014. 3.13

No.2110 No.28